

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092700051		
法人名	株式会社N・S・C		
事業所名	株式会社N・S・Cグループホーム星の降る村		
所在地	群馬県利根郡昭和村大字貝野瀬4090番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和2年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

上毛三山に囲まれた高原特有のマイナスイオンをたっぷり含んだ空気と四季折々の心いやされる風景。夜には満点の星空。自然をたっぷりと体感しながら過ごせる環境でありながら、関越道昭和インターから10分という交通の便も良好。
どなたでも、ほっこり出来る家族感覚を味わえるよう努力しています。一緒に笑い、一緒に涙できる温かいグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の地元の食材を購入し、食べ慣れた馴染みの食事を手作りしている。職員数等の状況によっては市販の既製食材に頼ってしまいがちであるが、利用者が食事に興味や関心を持つよう、また時には目新しい食事を試みる等命につながる食事作りにこだわりを持って取り組んでいる様子がうかがえる。また、共用空間は大人の生活の場としての雰囲気作りをし、飾り物も大人らしさを念頭に季節感のある掲示をしている。居室については、ベッドとポータブルトイレを本人が使い易いように配置換えする等、利用者が今持っている力を維持するための支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念全文を覚えている職員は少ないが、理念を理解し、取り組めるよう努力している	新入職員にはケアの柱となる理念を管理者が直接指導している。夜勤専従者も理念に沿ったケアができるよう利用者の情報を共有している。管理者は職員が理念を理解していると捉えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な取り組みはないに等しい	地域性により地域とのつきあいはあまりないが、近隣から野菜が届いたり、保育園の園児の慰問や定期的な訪問理美容を受け入れている。	地域との付き合いは難しいようだが、ボランティア等職員以外の人との触れ合いは利用者にとって良い刺激になるので、第三者の受け入れを工夫してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献できている内容の物はない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見を職員会議で話し合いサービスに生かしている	隔月で家族代表者、民生委員、介護保険課担当者が出席し、事業所からの利用者状況の報告、活動報告、事故報告等を基に意見交換し、話し合いの内容をサービスの向上につなげている。	全員の家族に運営推進会議の開催を知らせ、出席を促す努力をしてほしい。また出席者等を記入した議事録を開催した記録として残してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要事項について連絡を取り合っている	報告事項については、管理者が電話で伝えている。また、認定調査に立ち会う等、行政との協力、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 玄関施錠については、日中開放している(内側にセンサー設置) テラス戸開放	日中の玄関引き戸や共用空間からつながるテラスへの戸は開錠している。他の拘束もない。職員数が少なくなったことをきっかけに、身体拘束についての勉強会が行われなくなってしまった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、その後も不安・疑問等が無いが、こちらから声を掛け傾聴説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議や運営推進会議で意見交換を行っている	利用者は入浴等、嫌な時は嫌と自分の意思を自由に発言できる環境にある。家族からの要望はほとんどないが、面会時には利用者の健康状態等を伝え、要望を引き出す働きかけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が介護職員として同じ業務をこなしている為日常的に職員の意見提案を聞いている。	職員会議でのカンファレンスの中で、介護の仕方や統一した声かけについて、職員の意見や提案を取り入れている。また、事業所内でお茶会を開き、職員の思いを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なかなか、法人外の研修に参加できないがケアの質の向上に努めている 月に1回社内研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまりしていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会に来られた時は状況報告し、ご家族様からの話を毎回伺っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	主な面会者は家族で、他の訪問者は少ない。趣味の継続や日記をつける習慣、テレビ観賞にも興味、関心を持つ利用者は少なくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議を設け行っている	入居時のアセスメントの内容を、その後も利用者の意向として把握しているが、カンファレンスで話し合われる利用者の思いや意向は職員間で共有し、統一したケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	している	モニタリングは毎月の職員会議で行われている。介護計画の見直しは3ヶ月ごとにケアマネジャーが行い、利用者の実情に合った介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診内容を家族に報告したり職員による通院など支援している	入居時にかかりつけの主治医か協力医かを選択できることを説明している。月2回協力医の往診があり、通院は家族が付き添っている。歯科は年1回検診があり、必要に応じて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいないが、利用者の体調に変化があった時は病院と連絡を取り合い指示を受けたり必要に応じて通院、訪問看護を利用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化傾向がみられる場合は家族、主治医と話し合いを行っています	看取りはしないことを入居時に説明している。利用者の状態変化について協力医の判断で入院した方が良い場合は家族に伝え、その後入院するといった過程の中で重度化の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、職員間で情報交換、話し合い等を行こなっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている	年2回の消防避難訓練は実施していない。備蓄として水、宇宙食を用意している。	消防署立会の消防避難訓練を実施し、専門家の評価に基づいて、避難技術の習得や経験を積み上げる訓練を継続してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している	利用者には苗字ではなく、名前にさんを付けて声かけをしている。異性介助になる時や年長者に対する言動については、職員は利用者の気持ちをすでに理解した上で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴剤や飲み物、食事(リクエストがあった時、お誕生日メニュー)は希望に沿ったものを提供しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等本人の希望どおりに対応できるようにしえんしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容や保湿クリーム、整髪剤など本人の希望道理に対応しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、地元のとれたて野菜ふんだんに使った手作りの食事とおやつを提供している	職員が食材を購入し、手作りの食事を提供している。月2回利用者に馴染みの「すいとん」を作ったり、彼岸のぼたもち、行事食、目新しい食べ物(たこ焼き)を提供し、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小盛りから大盛り、常食から刻みまで、その利用者様にあわせ提供して毎日毎回チェックし記録に残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、義歯の状態観察を行っている。必要に応じ、歯科往診依頼している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりのタイミングでトイレへ声掛けをしたり、なるべくリハビリパンツなどは外しトイレをすすめ支援している	基本はトイレでの排泄として支援している。入院中のおむつ使用をタイミングを計って布パンツに変える取り組みをしたこともある。利用者によって昼夜の誘導や排泄用品を変え、柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを毎日毎回行い便秘や尿の状態を把握し必要に応じ主治医に報告し支持を貰っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じ毎日でも入浴できるように支援している。週最低2回入浴して頂くよう声掛け、実施している	毎日入浴の声かけをしている。連日になっても風呂好きな利用者には声をかけ、要望に沿った支援をしている。拒否が続く利用者には職員から働きかけ、入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月2回のケース会議にて話し合い実践している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は積極的に声をかけ散歩しています	冬はなかなか外に出ることができないが、玄関先まで行く利用者には職員が付き添う。以前はドライブや買い物と一緒に出かけたが、現在は外出の機会はない。テラスを外気浴に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が現金管理を行っているが、利用者様に物品等の購入希望があった時は一緒に買い物に行ったり代行したりし、購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ家族などと電話が出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をかざるときもあります	共用空間は大人の生活の場であり、在宅時の家庭の雰囲気が出るよう工夫しつつ、季節感のある物を飾っている。置コーナーを用意したり、採光にも注意を払い、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の変化に応じ席替えをしたりテーブル配置を変えたりし工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使っていたもの、気に入っていた物を使って頂いています	ベッド、TV、4段チェスト、カラーボックス、カーテンは備え付けで、自宅の部屋を再現するよう入居時には何でも持ち込んで良いことを伝えている。ベッド等の配置を変えて使い易い部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの自立度に応じた対応が出来るよう環境づくりに努めています		